

3月の果実の見通し

平成30年2月22日現在

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
みかん類		2,084	やや少ない	2,691	367	101%	310	-	-	中心産地である静岡が裏年に当たることから、年明け以降もみかん類全体に品薄状態が続いている。店頭売価を例年並にするために、量販店などでは1袋の入り数を減らしたりして対応しており、荷動きは停滞気味ながらも絶対量不足により相場は高値のまま推移。3月も静岡産「寿太郎」「青島」中心に、徳島・香川の貯蔵みかんが出回るが、貯蔵量は前年並にあり、価格もほぼ前年並が見込まれている。
いちご類		5,250	やや多い	5,457	1,210	101%	1,112	-	-	2月は天候不順や低温が続いた。生育に最も大きく影響が出たのは「さがほのか」で、その他の品種においては1果房、2果房は連続したため、1番房と2番房の入荷の谷間は大きくはなかった。3月に入って各産地から3果房の出荷が始まり、春らしい天候と気温になるにつれて出荷ピークを迎える。量販店などの果物販売の中心になり、荷動きは活発化する見込み。
メロン類		415	やや少ない	392	1,086	105%	1,091	-	-	厳しい冷え込みもあり、2月中旬以降、静岡産アールスメロンを中心に入荷が落ち込んで引き合い強まってきて、相場も徐々に上がっている。全体に玉肥大が悪くて小玉傾向となっているために、アンデスなどの大玉も業務筋を中心に需要が高まってきた。3月になれば出回り量は増えてくるものの、前年よりは少なく、価格も安かった前年を上回る見込み。
すいか類		481	かなり少ない	410	392	90%	380	-	-	すでに一部産地からの入荷はあったが、3月より各産地からの出荷が始まって30年産のスタートとなる。定植時期は例年と変わりはないものの天候と低温において生育遅れや玉肥大に若干影響を及ぼしている。今年の3月は例年に比べ気温が低そうではあるが、販売面においては「春3月」といわれ、太陽が出てくれればすいかの流れも良くなるだろう。本格的に増えてくるのは4月になってからと見込まれる。